

平成29年度事業報告

目標 より地域に求められる法人づくり

【総括】

社会福祉法の改正に応じて、新たな理事・評議員会による運営を行いました。地域貢献に関しては、新規事業である小規模多機能居宅介護事業所も含めた、法人全体で取り組んでいきました。具体的には、各事業所から選出された地域づくり委員会が中心となり、認知症サポーター養成講座や地区サロンの支援活動、オレンジカフェ等を行いました。あさぎり町内の介護事業所連絡会（S ネット）では、RUN 伴という認知症啓発のタスキリレーに協力して取り組み、あさぎり駅前広場をオレンジ色に染めました。

新規事業の小規模多機能居宅介護事業によって、これまでは支えることが難しかった在宅の1人暮らしの認知症高齢者の生活も、地域との結びつきを大切にしながら支えていくことが可能になり、まだ不十分ながらも、よいスタートを切ることができました。ただし、それに伴って、泰星苑と鐘ヶ丘居宅介護支援事業所の利用者が月明館へ移った方々がおられて、両事業所とも利用者数を減らしました。年間通して利用者がなかなか増えずに苦慮しましたが、年度末には、増加傾向に転じています。

また、人事考課の改善のため、コンピテンシーの考え方を取り入れて、法人が求める理想の職員像を職員も参画して考え、作り上げ、運用をはじめました。

『認知症介護実践者研修』や『認知症介護実践リーダー研修』、『若年認知症受入促進研修』の実習施設として、事業所に来る実習生からのフィードバックや意見交換をもらえることも、職員にとっても良い刺激となりました。

その他には、ICT（情報通信技術）の活用へ向けても、その第1歩として記録の電子化（絆ソフトの導入）を職員の協力のもと、法人全体で行っております。

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム 鐘ヶ丘ホーム）

利用者の処遇での問題解決については、多職種やご家族と連携を取りながら根拠を持って流れ作業にならないように、その都度話し合いの場が持たれスタッフのスキルアップに努めることができました。認知症の支援については、対応困難ケースも認知症指導者のアドバイスを受け一人の人として温かく接し、レクリエーションや音楽療法などで沢山の笑顔を見せてもらい、尊厳ある生活をして頂くことができました。更なる困難事例は緊急のユニット会議を実施し、対応策を検討し課題解決に努めました。誕生会の開催についてはユニット毎に開催し利用者スタッフで実施しました。

看取りも7件、嘱託医の指示のもとに部署間で連携を取り家族様と一緒に利用者の最期を見守り、悔いなくお見送りすることができました。

2. 地域密着型介護老人福祉施設（鐘ヶ丘ホームいちふさ）

個室ユニットの特性を活かして、利用者の皆様が落ちついて生活が出来るように一人一人の状態に合わせ、支援することができました。また、施設内外のいろいろな行事にすべての利用者が参加され、地域の皆様との久しぶりの再会に会話弾み笑顔多く見られました。ご家族の皆様には利用者の現在の状況を密に報告し、情報の共有を図ることができました。看取りに関しては6件、嘱託医の指示のもとに部署間で連携を取り家族様と一緒に利用者の最期を見守り、出会いに感謝しながらお見送りすることができました。

3. 短期入所生活介護（鐘ヶ丘ホーム）

介護者の負担軽減の為の利用を理解し、在宅の延長での支援を統一してケアをさせて頂きました。担当スタッフと作業療法士を中心に自立支援、レクリエーション等でいつも笑いの絶えない雰囲気になじみの関係の中でショート利用を楽しみにしてもらった事が出来ました。認知症ケアでは戸惑う場面もありましたが、その都度認知症介護指導者に助言を受けながら、スタッフもスキルアップできました。利用者の様態の変化にはいち早く気づくことができ、相談員と連携をとり担当ケアマネに繋ぐことができました。

4. 居宅介護支援事業所（鐘ヶ丘居宅介護支援事業所）

年度はじめに、利用者5名が月明館へ移行され、昨年度と比べて、年度を通じて月におおむね5名減の状態が続きました。ただ、新規利用者は例年以上に多く、20名以上もありましたが、施設入居や入院等での減少も避けがたく、増減した結果としての数字となっています。その他に、要介護度が下がった方も例年以上におられて、自立支援へ向けてのケアマネジメントが上手くいった結

果ではないかと思われます。

あさぎり町からの委託の要介護認定調査や介護予防ケアマネジメントも、積極的にこなし、地域ケア会議への事例提供も定期的に行って、地域の多職種との連携や専門職としての自己研鑽にも努めました。

また、今年度も上小学校の認知症サポーター養成講座やオレンジカフェの支援、認知症啓発のタスキリレー（RUN 伴）の支援等の地域貢献活動を行いました。

5. 地域密着型通所介護事業所（デイサービス泰星苑）

基本方針「1人ひとりのやりたいことできることをしていただくデイ」を目指した自立支援を行ってきましたが、ポイント券配布による意欲向上のやり方は、途中から中止しています。年度末には、中重度（要介護度3以上）の利用者が9割を超える状況の中、これまで通りのやり方では上手くいなくなってきたからです。月明館へ利用者が流れた影響で利用者は減少しましたが、『泰星苑だより』の配布や地区サロンへの出前活動等を通じてPRに努めました。新規利用者の獲得数では、前年度を上回っています。

地域との交流に関しては、介護家族会が実施できませんでしたが、地域交流会や運営推進会議、地域の祭りやチャリティーショー、認知症啓発のタスキリレー（RUN 伴）への参加等を行いました。

6. 小規模多機能居宅介護支援事業所（小規模多機能ホーム月明館）

新規事業の初年度ということで、試行錯誤をしながら取り組んでまいりました。小規模多機能の目指す、本人の「～したい」の実現や地域での生活の継続は、言うは易し行うは難しで、なかなか思うようにはいきませんでした。勉強会やミーティングの時間を頻繁に設けながら1年間やってまいりました。

利用者5名からスタートし、年度末には15名まで増えています。途中、亡くなられたり入院された方もおられましたので、1年目としては比較的順調に利用者を増やしてきました。利用者の中に若年性認知症の方もおりましたが、対応が難しく、認知症介護実践者研修を受講した職員を半数以上配置していましたが、力不足でした。その他の高齢の認知症の利用者の方々とは、上手く信頼関係を築きながら、その人や家族を支えていくことができ、複数の利用者本人から高く評価していただくこともありました。

地域との交流に関しては、介護家族会が実施できませんでしたが、地域交流会や運営推進会議、オレンジカフェや認知症啓発のタスキリレー（RUN 伴）への参加等を行いました。